

令和7年度学校評価

評価項目	中期経営目標	短期経営目標 (令和7年度重点目標)	目的達成のための具体的方策 【具体的な手立て】	成果・取組指標	評価者	尺度	成果または改善点 改善のための方策	
1 学 び の 保 障 (教 師 ・ 研 究)	「分かる授業・達成感のある授業」を目指して学び続ける。		・学習課題を明示(めあて・まとめ・ふり回り)し、授業の流れが分かるように提示する。	教職員の自己評価で肯定的評価80%超をめざす。 児童アンケートで肯定的評価70%超をめざす。	教職員	67%	○学びの保障に関しては、児童に分かりやすく楽しく学べるよう工夫を心がけた。 ○流れが示してあると、指導者・児童ともに安心だった。 ▲振り返りについては、十分な成果とは言えないが、次時への指針に生かした。▲ふり回りまでいけないことが多かった。 ▲ふり回りの「質」の面で見ると向上の余地がある。 ☆学習の中でもめあて、まとめ、ふり回りをすることの共通理解を行う。 ☆ふり回りの視点(何にふり返っているのか)を明確にする。 「○できてよかった」など単純にやりがちなため、例を示していく。	
					児童	分かる授業	91%	
					教職員	80%	○授業公開で感じたが、子どもたちの話合いの雰囲気が良い。先生方が同じ方向で取り組んでおられてよい。 ○統合一年目で大変な混乱の中、先生方のご努力により、大きな事故もなく子どもたちも元気に明るく学校生活を送っているように拝見した。次年度以降もっと横田色が目立つ学校になればよいと思う。 ○人の繋がりが稀薄な勢勢になったと思われるがコミュニケーション力を付けてほしい。 ○全ての授業ではないが学習課題を教員が設定し、自分のペースで学習できるように形にした。しかし、ペア・グループ学習の質の向上にもう少し尽力したい。☆話しの手順や話す内容などを自分たちの普段のグループ学習をふりかえらせ、もっとよくなることはないか話し合わせるなどしたい。	
					児童	聞く	89%	
					児童	話す	72%	
						話し合う	84%	
				・研究授業等で、互いに授業を参観し合い、授業力向上に努める。	教職員の自己評価で肯定的評価80%超をめざす。	教職員	47%	○互いに授業を見合うことで勉強になった。 ▲少ない機会の中では良かったが、十分とは言えなかった。一☆次年度、どの程度参観するかを決めておく。 ☆次年度は、年間を通してどの程度参観するかをあらかじめ決め、計画的に授業参観の機会を確保する。また、路案など指導案の形式を見直し、負担を軽減しながら授業改善につながる形を検討する。さらに、研究内容そのものを精選し、参観と協議が実質的な学びとなるよう体制を整えていく。
		授業時間の確保に努める。		・チャイムと共に授業を始め、授業時間を確保する。(チャイム着席)	教職員の自己評価で肯定的評価80%超をめざす。 児童アンケートで肯定的評価70%超をめざす。	教職員	67%	○時間に関しては子ども達に日ごろから声掛けしている。1学期に比べ、チャイム着席の意識は向上しているように思える。 一☆チャイム着席のことを忘れてしまう児童がいるため、そのたびに声かけをしていきたい。 ▲始業時間を守る意識をもたせたい。 ▲1時間目の自習監督は45分の時間を確保しづらかった。 ▲1時間目のスタートが時間通りにならない。 ☆日ごろの声かけによりチャイム着席の意識は向上してきているが、忘れてしまう児童もいるため、次年度も継続して個別に声かけを行い、定着を図る。 ☆始業時間を守る意識を高めるため、授業者がチャイムより先に教室に入ることを徹底する。 ☆1時間目の自習監督時間が確保しづらかったことから、朝の準備や活動を簡素化し、朝の時間を確保して1時間目のスタートを安定させる体制を整えていく。
				・自分の考えを言語化することで、感じたこと考えたことを確かなものにする(ホワイトボードやノートを活用、ペア学習、グループ学習) ・行事等の機会ごとに感想発表の時間を設ける。	教職員の自己評価で肯定的評価80%超をめざす。	教職員	73%	○文章表現が豊かになってきた。全校の前で発言するとき、良い姿を見ていた。 ○研究の成果もあり、行事での感想発表を十分に行うことができた。 ▲学年、学級によって差がある。特支の評価と一緒にすると低くなりがちである。☆特別支援の評価観点を「別枠」で設定し、そこに特支の専門性と成果を正しく位置づける。 ☆全校集会などの後、教室に帰った際感想を交流する時間などを設ける。
		言語活動を重視し、自分の考えを表現する機会を取り入れる。				教職員	73%	
		ICT機器を活用しながら音楽・計算・漢字の基礎学力を定着させる。		・奥出雲「ICT活用スキルプラン」に沿った研修と実践を進め、児童のICT活用能力のスキルアップに努める。	教職員の自己評価で肯定的評価80%超をめざす。	教職員	53%	○ミニ研究の場があったことで、他の職員に助けられた。また、自身もスキルアップができた。 ○ICT機器を活用して学習を進めている。 ▲奥出雲「ICT活用スキルプラン」の理解が不十分だった。 ▲「ICT活用スキルプラン」と「基礎学力を定着する」に整合性がない。 ☆次年度は、学年として育成する情報活用能力を明確にし、年間を通じた研修計画を作成することで、スキルプランの理解と実践を深める。 ☆ソフトや機器の使い方に関するミニ研修を継続し、研究内容との一貫性をもったICT活用を推進していく。
		家庭学習の習慣作りと基礎学力向上のため、継続的に呼びかけ、指導する。 ・家庭学習のてびきの活用や、自主学習ノートのメニュー紹介等をする。		・(10分×学年)の家庭学習時間をめざし、家庭学習に取り組ませる。 ・家庭学習のてびきの活用や、自主学習ノートのメニュー紹介等をする。	教職員の自己評価で肯定的評価80%超をめざす。 児童アンケートや保護者アンケートで肯定的評価70%超をめざす。	教職員	67%	○家庭での学習が十分に確保されているのは家庭での指導もあり、協力を大切にしていきたい。 ▲学年、学級によって差がある。特支の評価と一緒にすると低くなりがちである。一☆特支については、10×学年以外の指標で取り組む。 ▲自学については、まだ内容に広がりがない。一☆自学メニューの紹介などでできていないため、教員側が示唆していきたい。
					児童	家庭学習	80%	
					保護者	家庭学習の内容・時間	77%	
	ふるさと学習などを通して、体験的な活動を推進し、地域の課題を追求する。		・地域の自然、人・もの・ことを授業に積極的に取り入れる。	教職員の自己評価で肯定的評価80%超をめざす。 児童アンケートや保護者アンケートで肯定的評価70%超をめざす。	教職員	87%	○夏休みの職員研修(フィールドワーク)が有意義であった。 ○大人になって故郷を思える思い出を持ってほしい。 ○必要に応じて地域を利用してほしい。 ○統合初年度で横田地区を中心としたふるさと教育となったが、1・2年生が金魚寺に出かけた活動や、4地区の方々を招いて行った昔の遊び交流会、秋のおもちゃ発表会など、地域を広く捉えた取組を実施できたことは、次年度のふるさと教育の充実につながる有意義な活動であった。 ☆次年度は地域連携CNが小学校に配置されるため、地域との渉外や地域資源の発掘をより計画的に進めていく。CNを中心に地域とのつながりを広げ、学習活動に生かせる体制を整えていきたい。	
					児童	ふるさと	85%	
					保護者	ふるさと	90%	
					地域	ふるさと	89%	
	読書に親しみ、日常的に読書するよう学校において読書の時間を確保する。		・朝読書の時間を確保する。 ・週末読書、おすすみ30冊、読書ボランティアの活動を推進する。	児童アンケート、保護者アンケートで肯定的評価70%超をめざす。	児童	読書	70%	○おすすみの本リストの作成がよかった。児童のやる気を引き出した。 ▲登校バスの時間によって、全員が落ち着いて朝読書を行うことは難しい。 ☆登校バスの到着時間にばらつきがあるため一斉朝読書は難しい。生活時程の見直し困難であることから、来室した児童から静かに読書や連絡帳記入などの落ち着いた活動始める運用に切り替え、朝の学習環境を整えていく。
					保護者	読書	73%	

評価項目	中期経営目標	短期経営目標 (令和7年度重点目標)	達成のための具体的方策【具体的な手立】	成果・取組指標	評価者	成果または改善点 改善のための方策			
						達成率	内容		
Ⅱ心の保障 (生活・研究)	○開校1年目の不安を和らげる学級経営を進める。 ○人権を尊重し、いじめを許さない風土づくりに取り組む。 ○児童主体の活動・行事を行う。 ○多様な人と関わる力を育成する。 ○チャレンジ精神とレジリエンスを高める。 ○人のことを大切にしたい。	子ども理解の深化に努め、一人一人のよさを生かす。	・学期に1回の教育相談で、児童のケアを行う。 ・スクールカウンセラーとの教育相談を積極的にすすめる。 ・アンケートの分析と活用	教職員の自己評価で肯定的評価80%超をめざす。 児童アンケート、保護者アンケートで肯定的評価70%超をめざす。	教職員	80%	○教育相談を2回から3回に増やしたことは、児童理解を深める機会が増え、よかった。 ○SCの教育プログラムを積極的に取り入れたい。→☆担任に周知する。 ○1年目で先生方もいろいろ迷いながらの活動で大変だと思うが、子ども達の表情やお便りから楽しく過ごしている事が伝わってきた。 ▲教育相談に時間がかかる。→教育相談週を1週間～2週間にする。		
			・自己有用感が高まる場を積極的ににつく。	教職員の自己評価で肯定的評価80%超をめざす。	教職員	87%	○教科や特別活動などで自己有用感が高まる場が設定してあった。 ▲春だけでも校内で名札を付けるのはどうか。 ☆名札の着用品が難しいため、年度当初に異年齢で名前を覚える構造的エンカウンターやレク活動を行い、自然な関係づくりを促す。		
		すべての教育活動の基盤に人権・同和教育を据える。	・一人一人の人権を尊重し、いじめや差別は許されないことであると、毅然たる態度で指導する。 ○校内研修会の開催(職員) ○生活指導の指導 ・言葉遣い・話の聞き方 ・あいさつ・人間関係 ○人権学習・同和問題学習 ○人権集会、授業公開	新職員の自己評価で肯定的評価80%超をめざす。 児童アンケートで肯定的評価70%超をめざす。	教職員	87%	▲日常生活での言葉づかいやあいさつは、まだまだ課題が残る。→☆その都度、声かけ、指導をする。 ▲保護者への啓発が充分行えなかった。→☆人権にかかわる授業公開と保護者向けの研修会の実施。 ○ミニ研修は様々な人権課題を取り上げることができ、有効であった。		
			・学級活動において、「目指す子どもの姿」学習過程で目指す子どもの姿にどれだけ到達しているか見取る。 ・学校行事においては、ねらい・振り返りシートの定数を基に子どもの姿を見取る。 ・行事に限らず、日常生活の中で行事等で学んだことを次に生かす姿を見取る。	教職員の自己評価で肯定的評価80%超をめざす。	教職員	87%	○学校行事では、ねらいと振り返りシートの記述を基に子どもの姿を丁寧に捉えることができた。 ○行事での学びが日常の生活場面に生かされる姿も見られ、学習と生活がつながるよい循環が生まれていた。		
		特別な支援が必要な児童に対し、全教職員で共通理解を図り、支援する。	・子どもを語る会の情報交換を生かす。 ・巡回教育相談等を利用し、児童理解に努める(支援の在り方、専門機関との連携)。 ・校内支援委員会を迅速かつ丁寧に行う。	教職員の自己評価で肯定的評価80%超をめざす。	教職員	87%	○子どもを語る会が月一回快裁されたため、細かく迅速に共有された。→☆職朝や職員会議で小規模の子どもを語る会を実施する。 ▲早期に校内支援委員会を開催すべき。 ☆次年度も、職朝や職員会議の中で小規模の子どもを語る会を取り入れ、日常的に情報共有できる体制をつくる。 ☆校内支援委員会を5月中旬と10月に設定し、にこサボや通級の利用状況を早期に確認・見直し機会とする。また、年間を見通した校内支援委員会計画を作成し、必要な支援を速やかに検討できる体制を整える。		
			・心の教育を基盤とする道徳教育を実践する。 お世話になった方に感謝の気持ちを手紙で伝える。	教職員自己評価で肯定的評価80%超をめざす。 児童アンケートで肯定的評価70%超をめざす。	教職員	80%	○陸上練習や大会で頑張っていた5・6年生に対して、4年生がその努力を黒板に書いて伝えたり、5年生が6年生の頑張りを手紙にまとめて渡したりする姿が見られた。異学年の子ども同士が互いの努力を認め、感謝や励ましを自然に表現する温かい関係づくりが進んでいる。		
		道徳の授業で、積極的に考え、議論する機会を増やす。	・子どもを語る会の情報交換を生かす。 ・巡回教育相談等を利用し、児童理解に努める(支援の在り方、専門機関との連携)。 ・校内支援委員会を迅速かつ丁寧に行う。	教職員の自己評価で肯定的評価80%超をめざす。 児童アンケートで肯定的評価70%超をめざす。	教職員	75%	○陸上練習や大会で頑張っていた5・6年生に対して、4年生がその努力を黒板に書いて伝えたり、5年生が6年生の頑張りを手紙にまとめて渡したりする姿が見られた。異学年の子ども同士が互いの努力を認め、感謝や励ましを自然に表現する温かい関係づくりが進んでいる。		
			・心身の教育を基盤とする道徳教育を実践する。 お世話になった方に感謝の気持ちを手紙で伝える。	教職員自己評価で肯定的評価80%超をめざす。 児童アンケートで肯定的評価70%超をめざす。	児童	85%	○陸上練習や大会で頑張っていた5・6年生に対して、4年生がその努力を黒板に書いて伝えたり、5年生が6年生の頑張りを手紙にまとめて渡したりする姿が見られた。異学年の子ども同士が互いの努力を認め、感謝や励ましを自然に表現する温かい関係づくりが進んでいる。		
		Ⅲ健康の保障 (生活・教務)	○年間を通した体力づくりを推進する。 ○教科体育を充実する。 ○児童会を軸とした体育的行事を推進する。 ○早ね、早起き、朝ご飯を徹底する。 ○食育に関する指導を推進する。	子どもたちの生活リズムの向上に、家庭と連携して取り組む。	・スマイルチャレンジ等を活用して、子ども達の生活習慣やメディア接触について啓発と指導を行う。 ・学校保健委員会の実施 ・スマイルチャレンジの活用(横田地域)	教職員の自己評価で肯定的評価80%超をめざす。 児童アンケートで肯定的評価90%超をめざす。	教職員	60%	▲取り組みデータの活用ができていなかった。→☆お便りや個別指導で積極的に活用していく。 ▲児童が実施したことに対して、職員が支援や指導することが充分ではなかった。 ☆結果をもとに個別指導や集団指導を行っていく。 ☆課題を委員会に共有し、児童の視点から改善案を考えて実践につなげる。また、児童が行った活動の結果をもとに、個別指導や集団指導を計画的に行う体制を整え、主体的な学校づくりを促進する。
					・心身の教育を基盤とする道徳教育を実践する。 お世話になった方に感謝の気持ちを手紙で伝える。	教職員自己評価で肯定的評価80%超をめざす。 児童アンケートで肯定的評価70%超をめざす。	児童	84%	○ロードレースの取組がよかった。 ▲健康の保障に関して、体育主任としてできたことが少なかったように感じたため、改善していきたい。 ☆ロードレースで得られた成果を生かし、体育の授業や短期間の取組の中で体力づくりを計画的に行い、その内容を体力向上計画に位置付ける。 ☆日常の運動の様子を見取り、必要に応じて個別・学年への支援や指導につなげることで、健康の保障に向けた体育主任としての役割を強化する。
めあてをもった体力づくりの充実を図る。	・児童会活動の中で全校の体力向上を目指す活動を進める。			教職員の自己評価で肯定的評価80%超をめざす。 児童アンケートで肯定的評価70%超をめざす。	教職員	60%	○ロードレースの取組がよかった。 ▲健康の保障に関して、体育主任としてできたことが少なかったように感じたため、改善していきたい。 ☆ロードレースで得られた成果を生かし、体育の授業や短期間の取組の中で体力づくりを計画的に行い、その内容を体力向上計画に位置付ける。 ☆日常の運動の様子を見取り、必要に応じて個別・学年への支援や指導につなげることで、健康の保障に向けた体育主任としての役割を強化する。		
	・食育の指導(食育ノートの活用)と栄養指導を行う。			栄養教諭による指導を全学年実施する。	教職員	87%	○全学年で実施ができた。		
食事のマナーやバランスのよい食事についての指導を徹底する。	・給食指導(食器を持って、姿勢良く、時間内に残さず食べる)を継続して行う。			新職員の自己評価で肯定的評価80%超をめざす。 児童アンケートで肯定的評価90%超をめざす。	教職員	86%	○栄養教諭と連携して、学期ごとに給食指導に来てもらうことができた。 ☆交流給食を定期的に行う。 ☆年度当初、低学年の給食指導に入る人員を決めておくべき。 ☆地域講師や食のノートを活用した食に関する指導を継続して行っていく。		
	・子ども達の衛生意識の向上のため、手洗い、うがい、ハンカチの携帯などの衛生指導を継続的に行う。			教職員の自己評価で肯定的評価80%超をめざす。 児童アンケートで肯定的評価90%超をめざす。	児童	72%	○各学年で声かけ、指導をもらった。 ▲廊下に設置してあるトイレペーパーは便利だが、授業中に鼻をかみに難儀する児童が気になる。可能な限り自分でティッシュを持ってきて、自席で対処してほしい。 ▲手洗いが不十分。ハンカチを持ってきていない児童がほぼ決まっている。→☆委員会呼びかけ。学級での保健指導、個別指導を行う。 ☆各学年での声かけ・指導を継続しつつ、年度当初にハンカチ・ティッシュの持参やトイレペーパーの使用ルール(給食時・緊急時のみ)を明確に指導する。 ☆手洗い不足や持ち物の未準備が見られる児童には、委員会での呼びかけ、学級での保健指導、個別指導を組み合わせで改善を図る。		
学年に応じた子どもの衛生意識を高める。	・子ども達の衛生意識の向上のため、手洗い、うがい、ハンカチの携帯などの衛生指導を継続的に行う。			教職員の自己評価で肯定的評価80%超をめざす。 児童アンケートで肯定的評価90%超をめざす。	教職員	67%	○各学年で声かけ、指導をもらった。 ▲廊下に設置してあるトイレペーパーは便利だが、授業中に鼻をかみに難儀する児童が気になる。可能な限り自分でティッシュを持ってきて、自席で対処してほしい。 ▲手洗いが不十分。ハンカチを持ってきていない児童がほぼ決まっている。→☆委員会呼びかけ。学級での保健指導、個別指導を行う。 ☆各学年での声かけ・指導を継続しつつ、年度当初にハンカチ・ティッシュの持参やトイレペーパーの使用ルール(給食時・緊急時のみ)を明確に指導する。 ☆手洗い不足や持ち物の未準備が見られる児童には、委員会での呼びかけ、学級での保健指導、個別指導を組み合わせで改善を図る。		
	・毎月15日に安全点検を実施し、安全な環境整備に努める。			教職員自己評価で肯定的評価80%超をめざす。	教職員	87%	○全学年で実施ができた。		
学校内外での安全確保に努め、適切な危機管理に努める。	・バス通学児童の乗車時や乗車中のマナー指導とバス下校児童の把握を行う。 ・避難訓練を通して、安全意識を高める。			教職員の自己評価で肯定的評価80%超をめざす。 児童アンケートで肯定的評価90%超をめざす。	教職員	80%	○全学年で実施ができた。		
	・安全な下校指導の徹底、呼びかけ ・PTAとの連携による環境整備			教職員の自己評価で肯定的評価80%超をめざす。	児童	94%	○全学年で実施ができた。		
学校内外での安全確保に努め、適切な危機管理に努める。	・バス通学児童の乗車時や乗車中のマナー指導とバス下校児童の把握を行う。 ・避難訓練を通して、安全意識を高める。	教職員の自己評価で肯定的評価80%超をめざす。 児童アンケートで肯定的評価90%超をめざす。	教職員	80%	○全学年で実施ができた。				
	・安全な下校指導の徹底、呼びかけ ・PTAとの連携による環境整備	教職員の自己評価で肯定的評価80%超をめざす。	児童	80%	○全学年で実施ができた。				

評価項目	中期経営目標	短期経営目標 (令和7年度重点目標)	目的達成のための具体的方策 【具体的な手立て】	成果・取組指標	評価者	尺度		成果または改善点 改善のための方策	
IV 開かれた学校づくり (総務)	授業公開をはじめ学校公開行事等の告知を早めに行い、その機会を充実させる。		・教育活動の状況を積極的に情報公開する。(学校だより、学級だより、ブログ、PTA総会、授業公開、学級懇談、アンケート)	教職員の自己評価で肯定的評価80%超をめざす。 保護者アンケート、関係者アンケートで肯定的評価80%超をめざす。	教職員		80%		
						保護者	情報提供		91%
						地域	情報提供		100%
	○つなげに拓く教育課程を編成する。 ○幼・小・中・高・専上の連携を図る。 ○ふさと教育を推進する。 ○地域に出かけて体験活動を行う。 ○ひともものことを探究する学習を充実させる。	地域への情報発信と地域の方との情報交換を積極的に行う。	横小教育を語る会、教育振興会を定期的に開催する。 ・心を込めて、電話や訪問の対応する。	教職員の自己評価で肯定的評価80%超をめざす。 保護者アンケート、関係者アンケートで肯定的評価80%超をめざす。	教職員		93%	▲電話対応の際に職員が名乗らないことがあり、誰が対応したかが分かりにくい場面があった。→電話対応時には必ず名乗ることを徹底し、対応者が明確になるようにする。 ▲電話回線が1回線のみのため、混雑時に対応が滞ることがあった。→電話回線の増設が難しいため、来年度導入される欠席連絡アプリの活用をさらに促進し、電話集中の緩和を図る。	
						保護者	要望への対応		84%
							連携		83%
							電話対応		87%
						地域	連携		100%
	幼児園・中学校・高校・専門学校との交流活動を積極的に行う。		・かけはし会、幼小連絡会等を生かしながら、継続的な情報交換(子どもや家庭状況)を行う。	教職員自己評価で、肯定的評価80%超をめざす。	教職員		80%	○幼児園、児童クラブと連携することができた。相談しやすく、また、交流活動も受け入れてもらったので、非常にありがたい。	
同じおいで、よく学び心豊かでたくましい横田の子を育成する。		・来年度のコミュニティスクールに向けた取り組みを行う。	教職員自己評価で、肯定的評価80%超をめざす。	教職員		73%	▲コミュニティスクールに向けた準備は進んでいるものの、教職員への情報共有や意図の浸透が十分ではなく、学校全体としての共通理解がまだ不十分な面がある。 ☆5月の開始に向けて、教職員に対してコミュニティスクールの目的や運営の流れを丁寧に共有し、共通理解を図る。また、学校内外への情報発信を進め、協力体制を整えながら、立ち上げ後も円滑に運営できるような準備を進める。		
V 細られる教職員(生指・教務・研究・総務)	○教職員の働き方改革、業務改善	19時までに退勤する。(教職員の割合の目標値80%)	・19時までに退勤する。(教職員の割合の目標値80%)	教職員自己評価で、肯定的評価80%超をめざす。	教職員		60%	○委員会からのタイムカードデータをもとに分析した結果、12月は19時までの退勤率が高く働き方改革の成果が見られた。 ▲一方、4月は長時間勤務が常態化しており、業務の偏りや年度初めの負担が課題である。 ☆今後は業務の標準化・分散化、会議の効率化、ICT活用を進め、全教職員が安定して19時までに退勤できる体制を整えていく。	
会議、研修等の回数の必要最小限及び短時間化を行う。	・職員会議の年間計画を事前に共有し、準備を促す。	教職員自己評価で、肯定的評価80%超をめざす。	教職員		80%	○職員会議の年間計画を事前に共有し、準備を促すことができた。 ○年間計画があることで、各担当が見通しをもって準備に取り組むことができ、会議運営の効率化につながった。			
会議、研修等の回数の必要最小限及び短時間化を行う。	・内容に応じて、サイボーズを活用する。	教職員自己評価で、肯定的評価80%超をめざす。	教職員		80%	○内容に応じてサイボーズを活用することで、情報共有が迅速になり、職前や職員会議の時間短縮につながった。 ○必要な資料や連絡事項が事前に確認できるため、会議中の説明時間が減り、効率的な運営が可能となった。			
会議、研修等の回数の必要最小限及び短時間化を行う。	・タイムキーパーを決めて時間管理を徹底すると、発言の重複や視線を防止する。	教職員自己評価で、肯定的評価80%超をめざす。	教職員		73%	☆会議資料や連絡事項はサイボーズで事前共有し、会議中の説明時間を削減する。 ☆議題の優先順位を明確にし、重要度の高い案件から扱うことで、会議の効率化と時間内終了を徹底する。			
快適な職場環境を創造する。(整理・整頓・清掃)	・職員室や共用スペースに対して、簡単なチェックリストを作成(例:机上の書類は不要なもの処分しているか、備品は定位置にあるか等)	教職員自己評価で、肯定的評価80%超をめざす。	教職員		53%	○主任や校務技士のおかげで、共有スペースが使いやすくなった。 ▲機密文書や個人情報保護の観点で児童が職員室内に入ることはよくないのではないか。 ☆児童が職員室内に入らなくてもよい動線を確保し、個人情報保護と安全管理を強化する。 ☆職員室入口に掲示している「来室の仕方」を、児童・教職員双方に定期的に周知し、全員が同じルールで対応できるようにする。			
会議、研修等の回数の必要最小限及び短時間化を行う。	・書類・教材・物品の中で不要になっているものを思い切って処分する日(毎月20日)を設ける。	教職員自己評価で、肯定的評価80%超をめざす。	教職員		40%	☆毎月20日の実施が難しいため、学期末の「整理週間」や職員会議後の短時間整理など、実施しやすい形で不要物の整理を進める体制を整える。			
○学び続ける教職員集団:5%の授業改善、チーム対応	授業を大切に。開始終了時刻を守る。始末で楽しい授業を創る。ICTを活用した授業、個に応じ選択できる授業を行う。	・開始終了時刻を守る。 ・始末で楽しい授業を創る。 ・ICTを活用した授業、個に応じ選択できる授業を行う。	教職員自己評価で、肯定的評価80%超をめざす。	教職員		87%			
子どものことを最優先する。(小さな声えに耳を向ける、子どもの力を信じる、子どもの人権や尊厳を大切に)		・評価の際は「〇ができた」だけでなく「〇〇に取り組んだ姿勢」を言語化していく。	教職員自己評価で、肯定的評価80%超をめざす。	教職員		93%			
仕事を一人で抱え込まないよう、連携と協働を常とし、組織で対応する。		・行事・掲示・ルールづくりなどに児童が提案、決定に関わる場を設ける。	教職員自己評価で、肯定的評価80%超をめざす。	教職員		80%			
仕事を一人で抱え込まないよう、連携と協働を常とし、組織で対応する。		・業務内容を明確に分担しつ、「この領域は〇〇先生に相談OK」という役割認知を共有する。	教職員自己評価で、肯定的評価80%超をめざす。	教職員		87%			

○6年生の音楽の授業が月(振替休業日)、金曜日(修学旅行、児童総会、たたら、音楽鑑賞会、公開授業、学年閉鎖等)にあるため、かなり欠けが出た。今年度は仕方がないが、次年度以降、担任外の授業がよいと思う。→教務

○働き方改革の観点から2点お願いします。①各学年で行ってきたことなど、データで保管してあると良いと思います。例えば実施計画書、作成したプリントなど。新年度の新しい担任さんはとても助かると思います。②電話対応についてです。勤務時間より、早く学校に来て仕事している場合、電話が朝からなり、電話対応を行うのにとても困ります。電話をとる時間を決めてもらえるとう働きやすいです。また、朝9時等になるようにしてもらいたいと思います。保護者の方にも何時から何時まで電話に出ることができます。と伝える必要はあると思いますが。→総務

○個人懇談の件ですが、児童数が多いと担任は、負担になります。間で休みがとれるような、懇談設定にすると良いと思います。→教務部

○朝の会の時間が短く、歌を歌う時間があまりありません。→教務部

○生活時程の見直しが必要かと思っています。集会があるときには、時間がオーバーすることがあるので、集会時程を作成するなど、一時間目の授業が40分になることも多いので、45分とれるようにしてもらいたい。→総務部

○職員朝礼がかなり、長引くことがあります。サイボーズでよいことは、サイボーズのみで周知するなど、工夫が必要かなと思います。→総務部

○子どもたち同士がまだまだ名前を覚えていないように思いました。(名前を知らなくても遊べる、話せる関係性は良いとは思いますが。)→生指部

が週に2コマ以上ある時には月・金にならないようにしたほうが
ます。個人フォルダと担任さんは学年フォルダがあるとよいと
り電話対応も日直が8時までは基本対応するなど、みんなが平

いです。→教務部